

2023 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社太平洋		
事業所名	グループホームファミリー	ユニット名	2F
所在地	宗像市平井1丁目19番1号		
自己評価作成日	2024年2月1日	評価結果市町村受理日	2024年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年2月26日	評価確定日	2024年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

現体制になり4年が経ちました。入居者の半数を90歳以上が占め、また、職員の年齢も高くなっていますが、介護のプロとしての意識を全員が持ち、足りないところを学び続ける職場でありたいと思っています。第5類に移行した現在でも新型コロナの感染は続いています。地域の行事も少しずつ復活し、ファミリーでも外出行事や季節のイベントを実施できるようになりました。ファミリーの運営理念である「心の触れ合いを大切に」する介護、「地域との絆を大事に」する介護を実践し、入居者の皆様に安心して過ごして頂ける家となり、また、ご家族と地域の皆様に頼りにして頂ける場所となりますよう努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送り時に運営理念を唱和しますが、理念を読み上げること、暗記して言うことが単なる作業のひとつになってしまわないよう、理念の内容を理解し、自分の言動に活かしながら業務を行うことを目指します。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入していても日常的に交流があるとは言えませんが、地域の神社や山笠にお酒を奉納したり、初詣や見学に入居者様をお連れします。また、食材の多くを近くのお店から購入しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では「高齢者」「認知症」に関する話題が地域の役員さんから度々出されます。そこで丁寧にお答えすることで、認知症への理解を深めて頂くと共に、職員の頑張りを知って頂く良い機会になっていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態が重度化し、マンパワーも不足しているというファミリーの実態をきちんと報告し、その上で、できるだけ充実した生活を送って頂きたいと考えていることを会議でお伝えしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告だけでなく、事業所で発生した問題についても相談させて頂いています。私たちの実情や思いをよく聴いて助言を下さることに感謝しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠（暗証番号式ドア）については解除は難しいと思います。しかし、せめてスピーチロックをゼロにするため、職員全員で学びを続けたいと考えています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束を含む虐待については施設内研修を行います。虐待に該当すると思われる言動に気付いても、職員同士で声をかけ合って改善する環境とは言えません。まだまだ勉強が必要だと痛感する毎日です。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を含め、制度について学んだ経験を持つ職員はいると思いますが、その機会だけで理解するには難しい内容だと思います。パンフレットやメディア等を資料として皆で学ぶ、市に相談する等、入居者様とご家族が安心して利用を検討できる環境作りに努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には法人の統括マネジャーとファミリーの管理者があたります。重要事項の説明等に2時間弱を費やし、ご家族に充分理解して頂く時間としています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では外部の方がいらっしゃる場でご家族からのご意見を頂きます。内容は面会や外出に関することが殆どを占めます。実現が難しいこともありますが、できるだけご期待に添いたいと考えます。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは性格的に発言できない職員もいます。管理者は面談の機会を設け、不安や不満、要望等を個々に聴き取っています。必要であれば統括マネジャーや法人に相談し、助言を受けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から何か問題が発生し、ファミリーだけでは解決が難しい場合、管理者は統括マネジャー等に相談しています。管理者だけでなく、統括マネジャーと法人の役職者が同席の上、面談を行うこともあります。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	同性介助を強く望む入居者様が複数人おられるため、できれば女性の入職者を希望したいところですが、なぜか初老以上の男性が多いのが現実です。様々な資格や特技を持つ職員には、イベント等で力を活かせるようにしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや施設内研修内はもちろんですが、毎日の業務の中で人権を尊重できていないと思われる言動を目にした時は、当該職員に声をかけます。改善が難しい場合は管理者が個人面談を行います。職員同士で注意し合える環境になれば良いと思いますが、言葉のかけ方によっては人間関係がこじれるので、教育を続ける必要があると考えます。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や問題点等は管理者から統括マネージャーに報告、相談しています。新入職員はチェックリストをもとに指導し、もれなく指導できるようにしています。施設内研修は毎月行いますが、外部研修については、FAXやチラシ等をファイルしてタイムカードの横に置き、皆が自由に見られるようにしています。勤務調整することで受講しやすい環境を作ります。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、ファミリーが地域密着ネットワーク連絡会の会長事業所を務めており、オンライン会議に統括マネージャー、管理者、計画作成担当が参加しています。会長事業所であることで、同業の皆さんの声をこれまでより細かいところまで聞き取るようになりました。会議内で統括マネージャーが必要に応じて専門的な立場から意見を述べることもあり、ファミリーだけでなく、皆さんも参考になっていると思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の困りごとは入居前の面談でも殆ど分からず、担当ケアマネジャーさんとご家族からの情報から想像しています。入居後、頂いていた情報と違う一面が見えてきますが、その都度、ファミリーを自分の居場所だと思って頂けるよう、対応を考えています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と違い、ご家族の困りごとは早くから把握できますが、ご自宅での困りごとがそのまま施設でも困りごとであるとは限らないので、ご自宅で大変な思いを抱えておられたご家族に、日頃の様子をお伝えすると、驚きと同時に安堵の表情が見られます。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族としては「これ以上自宅では無理」というお気持ちが強くても、ご本人には理解できず、半分ごまかすような入居になりがちです。ご自宅で難しくなりやすいお食事や服薬、入浴等の「当たり前の、普通の生活」を取り戻して頂くことが当面必要な支援であることが殆どです。その後、楽しみを見つける支援も行いたいと思いますが、ご本人にその余裕がない場合もあるので、まずはご本人のリズムに合わせながら対応を考えます。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	最終的には職員がやり直すことが多いですが、作業や壁飾り作りで役割を担って頂きます。認知症の進行に伴い、できなくなったり、意欲がなくなったりする皆さんですが、参加して下さったことに必ず感謝の言葉を伝えています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でもファミリーでは対面での面会を行ってきました。入居と同時にご家族だけの生活リズムができ、外泊や外出への協力が難しくなることは理解できます。だからこそ、せめて面会に来て、顔を見せて差し上げてほしいとお願いしています。認知症の進行に伴い、ご家族のことが分からない、会話が成り立ちにくいという状況になると、面会の足が遠のきがちですが、その心情を理解しつつ、無理のない範囲で家族としての時間を持って頂きたいと思っています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく親戚の方も、申し出があれば面会に来て頂いています。どなたか分からないまま会話しても、会話の中の人の名前や場所の名前には笑顔や顔が見られます。がっかりしてお帰りになる方もいらっしゃいますが、それでも、会って頂いた意味はあると考えています。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特定の方に攻撃的な言動をする入居者様がいらっしゃいますが、他者への配慮ができない認知症の症状だということを私達が理解し、それ以上のトラブルに発展しないよう対応を考えています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	郵便物が届くことがあるので、退居後暫くは、ご家族の連絡先が分かるようにしています。亡くなられた方の場合も同じです。電話でお元気そうな声を聞くと安心します。郵便物と一緒に施設に残っていたお写真をお渡しすると、「こんな顔で母は笑ってたんですね」と仰るご家族と共に故人を偲ぶ時間を持つことができます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の困りごとがご本人の困りごとのように思ってしまうことがあります。多くの場合、ご本人は何も困っていません。普通の生活を取り戻すために私達が介助したり補ったりすることが、ご本人にとっての困りごとだと思いますが、時々、立ち止まって、ご本人の気持ちになってみることを忘れがちになるのは反省点です。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、担当だったケアマネジャーさんから情報を頂きます。ご本人とお話が可能な場合はご本人からも伺い、あとでご家族に確認することがあります。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の言動、朝夕の申し送りから現状を把握します。ご本人との会話で分かることもあります。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや定例ミーティングの場で入居者様の話題が出ますが、その多くが職員にとっての困りごとです。それがご本人の課題であるかどうかを話し合い、毎日のケア、計画作成に活かしたいと思います。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、介護職員だけでなく看護職員も記載します。申し送りで口に出しにくい内容は記録を読んで情報共有します。共有した情報をもとに日々の業務に活かす努力をしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態は年々重度化しています。透析の方もいらっしゃるため、週3回の送迎が必要です。主治医の指示により水分や体重の管理を行っていますが、ご本人とご家族に理解と協力を頂くことはなかなか難しいことがあります。また、食事が入らなくて点滴に5時間付き添う等、医療ニーズが高くなった入居者様について、主治医の意見も頂きながら、ご家族と話し合いを持ち、ご本人に一番良い過ごし方を一緒に考えます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社にお連れすると、当然のように手を合わせて祈る動作をなさいます。日常生活の多くのことが自力では難しくなっても、昔からの習慣は生きています。その美しい動作を拝見すると、私達まで安らかな気持ちになり、お連れして良かったと思います。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>透析等の特段の事情がない限り、ご家族は主治医（かかりつけ医）をファミリーの協力病院に変更することに納得して下さいます。入居に際し、元のかかりつけ医から協力病院に情報が提供され、診療がスムーズに移行できています。眼科や皮膚科等への受診は、ご家族からの情報や主治医の紹介によりますが、事業所と各医療機関、医療機関同士で十分に情報交換を行います。</p>		
33		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>朝の申し送りには看護職員が同席し、排泄や食事摂取の状況、発熱等の異常を把握します。受診の必要性があると考えた場合は協力病院に連絡して主治医の指示を仰ぎます。介護職は気になることがあれば小さなことでも看護職、または管理者に報告するよう努めています。</p>		
34		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>退院の時期については主治医の許可後に、病院の看護部長とファミリーの管理者が具体的な日時を検討しています。早期の退院をもちろん願っていますが、状況によっては時間がかかってもしっかり治療して戻って来て頂きたいと考えています。訪問診療時に主治医に入院中の病状を伺い、情報交換を行っています。</p>		
35	(15)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期であるとの主治医の判断、グループホーム適応外の状態であるとの主治医の判断により、管理者からご家族に誠意をもって説明を行います。その際、終末期に関してはご家族の意向を確認するための書類をお渡ししています。協力病院は先代から地域の医療を担ってきた病院です。主治医との連携を密にし、協力して入居様を支援する体制をとっています。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は施設内研修で行いますが、看護師である管理者が日頃から介護職員に対して必要な対応を説明しています。訓練は消防署の講習会を交代で受講するよう考えております。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練は年2回実施していますが、自然災害時の行動については施設内研修での机上訓練に留まっています。訓練でも緊張して予定通りの行動が難しいので、全職員が非常時に適切な行動をとるためには、まだ知識と訓練が不足していると思います。近隣住民の皆さんには見守り等の協力をお願いしたいと思っていますが、福祉避難所として皆さんを受け入れるためにも、まずはファミリーの職員がきちんと行動できるようにならないと考えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言動は永遠の課題です。認知症の方をどのように見ているか、考えているかがよく分かります。ただし、職員本人は無意識であることが多いので、施設内研修では「ファミリーあるある」を事例としてとりあげ、不適切なケアについて知識と気付きを得る機会にしています。自分の言動を振り返り、明日からの業務に活かしてもらいたいと考えています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いの表出がスムーズな入居者様が減って来たように感じます。まだまだ不十分ですが、ご本人の言葉を否定せず、最後まで言葉を聞いてから返事をするよう職員には日頃から伝えていきます。言葉だけでなく、表情や行動からその方の思いを汲み取るよう心がけています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の進行に伴い、誘導や介助が必要な入居者様が増えていますが、「部屋で休みたい」「お風呂に入りたくない」等の希望が強い場合は、ご本人のペースで過ごして頂くようにしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時の気温に合う服装を選ぶことが難しい入居者様が複数おられます。主治医からも服装の調節について助言があるので、どうしても着ておきたいもの以外の衣類を、ご本人の同意を得ながら枚数を減らして頂くよう努めています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを考慮して食事を作るのは難しいですが、カレーが苦手な方には同じ材料で和風の煮物風の味付けにする、納豆が苦手な方には他の物を提供する等、できる限りの配慮はしています。また、準備や片付けは安全を確保し、入居者様の喜びに繋がる支援を工夫して行きたいと考えています。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会で血液検査のデータをもとに栄養についても考えます。食事や水分は提供することに表に記入し、摂取量がすぐ分かるようにしています。食事形態やトロミの必要性は何か気付きがあるたびに検討し、できるだけレベルを落とさずに済む方法を考えます。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアは職員が介助していますが、歯科の訪問診療では専門的なケアが行われ、助言を頂いています。口腔環境を整えることが食べること以外にも役立つことを理解し、適切なケアを行います。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用はなかなか減りませんが、できるだけトイレで排泄して頂きたいと思っています。入居者様の羞恥心や不安を思い遣り、気持ちよく排泄して頂ける努力を続けます。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤を使用する必要がある場合は、主治医の指示により看護職員が与薬や処置を行います。毎日の食事には野菜を多く使用し、水分が不足しないよう、果物の味のゼリーを作って水分補給に利用しています。排便なしの日が何日も続かないよう、看護職員の判断でオリゴ糖を摂って頂くこともあります。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性介助以外、入居者様の希望に沿った入浴はできていません。お一人ずつの入浴で羞恥心には配慮できていますが、楽しんで頂くまでには至っていないと思います。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分の意思でホールで過ごしたり、居室で休んだりする方がおられます。昼夜逆転の恐れはありますが、在宅時代からの習慣のようです。食事や入浴の時は応じて下さるので、好きに過ごして頂いています。また、体調を考慮して管理者と看護職員が話し合い、日中に臥床の時間を設ける等、必要に応じて個別に対応を行うことがあります。夜間の睡眠の状態は夜勤者が2時間ごとに観察し、何か問題があれば、主治医に相談する、日中の活動量を増やしてみる等、夜間に安眠できるよう支援します。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は管理者と看護職員が行っています。入居者様の薬の内容について全てを把握している介護職員はいないと思います。症状の変化の観察は看護職員から申し送られ、何かあればすぐ報告するようになっています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お体は動いても、手順やルールの理解が難しい方が多く、全ての入居者様に楽しみを持って頂くことは難しいと思いますが、洗濯物たたみや歌を歌う等、昔から毎日の日課だったことには多く参加して頂いています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての入居者様がご家族と交流を持っておられるわけではありませんので、ご家族の協力が必要な場所への外出は非常に難しいです。また、施設側の事情としてマンパワー不足があり、個別の外出支援はできていません。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理と価値の理解は難しく、入居者様は現金をお持ちではありません。お小遣いは預り金として事務で保管し、外出支援時に職員付き添いの上で使って頂く他、急遽必要になったものを預り金の中から、ご家族の了解を得て購入することがあります。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、個人で携帯電話をお持ちの入居者様はおられません。職員がご家族に電話をかけ、ご本人と代わって話をして頂きます。手紙は、年賀状や暑中見舞いが入居者様宛てに届くことがありますので、ご本人にお渡しします。字や文章を書くことが難しい方が多く、手紙の「やり取り」まではできていませんが、ご希望があれば代筆という形での支援も行いたいと考えます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾りや行事を通して季節を感じて頂くと共に、家庭での思い出を大切にしていきたいと思っています。毎日の業務の中で職員の声や動きが入居者様の混乱の原因にならないよう気をつけます。また、室温は入居者様の体調に配慮し、こまめに調節します。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者様ごとに席が決まっていますが、折り合いが悪い方がおられます。攻撃的な言動が特定の相手に向けられている場合は、攻撃されている方を一時的に他の場所にお連れし、様子を見ています。同じテーブルについていても、ひとりで静かに座っておられる方、お喋りに花が咲く方等、様々です。お好きなように過ごして頂いています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火災等の原因にならないものであれば持ち込みは自由です。信仰する宗教の祭壇に向かって手を合わせる大切な日課になっている入居者様もおられます。居室がただ寝るだけの場所にならないよう、また、介護を受けるだけの場所にならないよう、壁や家具に飾るものには配慮が必要だと思っています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害がある入居者様のために、トイレの入り口に「トイレ（便所）」と大きく書いて掲示しています。各居室入り口にお名前を印刷した表札代わりの額を取り付けています。自室の場所を忘れても、表札を確認しながら自室に辿り着く方が複数名おられます。現在、完全に自由に移動する方はおられません。手を引く必要のない方は見守りのために職員が付き添いますが、それを嫌がられる方は少し離れた場所から見守り、入居者様の自尊心を大切にしつつ、安全を確保しています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				